

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103953
法人名	有限会社 やわらぎ
事業所名	グループホームぼうさんのおうち
所在地	愛媛県松山市久万の台137番地6
自己評価作成日	平成24年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族との関わりや地域の方々との交流

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●事業所では、毎月1・15日を「喫茶の日」と決めて、地域やご家族にも案内されている。15日は、ご家族が来られて、ピアノを弾いてくださり、ピアノの生演奏を楽しみながらお茶を楽しめる日となっている。他のご家族も、2～3名参加されて、一緒に準備して下さったり、お茶を楽しまれている。喫茶の日は、職員が、ご家族とゆっくりお話しする機会でもあり、又、ご家族と一緒に活動することで、関係性も深まっているようだ。事業所に足遠くなっているご家族には、職員が順番で毎月お手紙を書き、状態を知らせておられる。</p> <p>●利用者個々に担当職員を配置して、それぞれが介護計画を作成したり、支援等についても責任を持ってかわる体制を作っておられ、他職員が担当している利用者の支援にも協力することで、職員間の連携も強くなっており、この一年間、離職者はとても少ないようだ。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 やわらぎ

(ユニット名) グループホームふうさんのおうち

記入者(管理者)

氏名 山内 一明

評価完了日

平成24年 5月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホーム独自のの理念を作り、その理念を掲示している。町内会長や民生委員、住民にも声掛けして実践に繋げていけるように努める。	管理者は、「利用者の生活リズムを大切にする」ことを踏まえた理念作りを考えておられた。さらに、事業所が地域の中の「地域密着型サービス事業所」として、「どのようなことを目指していくか」ということをすべての職員で話し合い、事業所独自の理念の作成に取り組んでいかれてほしい。
			(外部評価) 「毎日がイキイキ・ワクワクと過ごせるよう工夫と努力をする」等の法人のケア理念は、職員採用面接時に説明をされており、事業所の入り口にも掲示されている。平成21年には、事業所独自で「利用者の方の思いに寄り添い和気あいあい」と理念を作成されているが、事業所では、「毎年理念を見直す」とこととされており、近々、職員で話し合い、新たに事業所理念を作成する予定となっていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所の子供達は時々遊びに来てくれているので、行事への呼びかけを積極的に行い交流を深めていきたい。	近所の子供達は時々遊びに来てくれているので、行事への呼びかけを積極的に行い交流を深めていきたい。
			(外部評価) 事業所が移転前から交流している保育園とのお付き合いを続けておられ、利用者は職員と保育園を訪問して、利用者が「かみしばい」を園児に読んで聞かせてあげている。園児は、「不思議の国のアリス」がお気に入りのようだ。職員が自宅から飼い猫を連れて来られる時には近所の子供達が見に来たり、夏に事業所駐車場でスイカ割りや花火を楽しまれる際にも、地域の子供達も来て、利用者と一緒に楽しんでいる。又、近くの公園の夏祭りには、利用者も出かけて行き、盆踊りを見学されたり、バザーで、たこ焼やおにぎりを買って雰囲気を楽しまれている。7月の市民大清掃の日には、管理者が出席して地域の方達とともに清掃活動をする予定となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々に運営推進会議や行事に参加してもらい、認知症の方を理解して頂けるように取り組んでいきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いた方々からの意見を職員に伝えサービス向上の為に、現場で取り入れ活かせるように努めている。</p> <p>(外部評価) 会議は、建物内に併設する小規模多機能型居宅介護事業所とともに開催されており、「防災」「成年後見制度」「感染症対策」等、外部から講師を招き、講話いただき参加者とともに勉強されたり、意見交換されている。管理者は、すべての参加者から意見をうかがえるよう働きかけに努めておられる。会議を通じて民生委員の方との関係も深まり、地域行事の情報も教えていただいたり、事業所行事の際には、近所の子ども達を連れて参加して下さっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市役所の方とは日頃から連絡はとれているが、担当者が変わる時があるので馴染みの関係性とはいかない。</p> <p>(外部評価) 市の担当者の方が運営推進会議等で来られた際には、事業所内の雰囲気について「落ち着いた雰囲気ですね」と感想を言ってくださったり、地域包括支援センターの担当者の方は、会議について「参加者みなが発言していて、いい会議ですね」と感想をくださった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 3カ月に1回はモニタリングして、身体拘束をしないようにするにはどうすればよいか検討している。また、家族に説明し同意を得ている。</p> <p>(外部評価) 現在、利用者がベッドからひとり降りたり、立ち上がろうとして転倒することを防ぐため、3名の方にベッド柵を付けており、さらに、ベッド柵が外れないようベルトで固定されている。3か月ごとに、現状について話し合う場を設けておられるが、改善に向けての支援には至っておられない。</p>	<p>事業所は、利用者の気持ちや思いを大切に考えておられる事業所でもあり、今後さらに、利用者が自由で安全に過ごせるよう、ケアに工夫や配慮できることはないか、ということ「利用者の立場」から考え続けていかれてほしい。又、身体拘束をすることの弊害について、ご家族と勉強したり、話し合いの機会を持ちながら現状を点検されたり、改善策を検討していかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待しないケア実践を職員間で徹底し統一して取り組んでいかなければならない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について学ぶ機会があった。必要性はあると思うが、活用できる支援は出来ていないのが現状。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前には、事前面接・見学を行っている。契約時には、十分な説明を行い利用者、家族に同意、納得を図る。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に利用者・家族が意見交換出来るように努めている。また、やわらぎ便りを発行し、家族に送付している。 (外部評価) 事業所では、毎月1・15日を「喫茶の日」と決めて、地域やご家族にも案内されている。15日は、ご家族が来られて、ピアノを弾いてくださり、ピアノの生演奏を楽しみながらお茶を楽しめる日となっている。他のご家族も、2～3名参加されて、一緒に準備してくださったり、お茶を楽しまれている。喫茶の日は、職員が、ご家族とゆっくりお話する機会でもあり、又、ご家族と一緒に活動することで、関係性も深まっているようだ。事業所に、足遠くなっているご家族には、職員が順番で毎月お手紙を書き、状態を知らせておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月1回、リーダー会を設けている。定期時にはサブリーダーも参加出来て各事業所の意見を言える機会がある。	
			(外部評価)	
			「その職員が夜勤する日は寝ない」ような利用者の方がおり、その職員の方は、「利用者ご本人との関係を深めたい」と考え、ご本人がお好きな野球を一緒に見に行くことを提案し、坊っちゃんスタジアムでプロ野球を観戦することを実現された。利用者が、「楽しかった。ありがとう」と言ってくれたことを職員はとてもうれしく思っておられ、関係作りに成果がみられたようだ。管理者は、「職員が気付くことを待つ」姿勢で、職員からの提案やアイデアを大切に考えておられる。利用者個々に担当職員を配置して、それぞれが介護計画を作成したり、支援等についても責任を持ってかかわる体制を作っておられ、他職員が担当している利用者の支援にも協力することで、職員間の連携も強くなっており、この一年間、離職者はとても少ないようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年度内に職員全員が内部あるいは外部研修を受けられるように職場環境・条件の整備に配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			事例研修や実技研修の年間スケジュールをたて、職員が希望する研修が出来るように調整してくれている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			やわらぎ全体で内外部・相互研修などに参加してサービスの向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			開始時に困っていること、楽しみにしている事を課題としてあげ、解決に向けて本人の安心を確保するための関係を築けるように努める。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントやケアプランの変更時には家族の方の要望を聞き、不安にならないよう来所時に様子を伝えるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の希望、状態、必要性を判断し、また変化があれば随時伝え、サービス開始において援助している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方が出来そうな家事への参加を促し、一緒に協力して頂く。手伝ってもらった時は感謝の気持ちを忘れないように努める。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との時間も大切にしつつ、近況や状態の報告又は相談をしている。負担にならないよう程度で協力を随時お願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣からの入居者は少なく友人等の面会は少ない。場所としては映画関係の仕事をしていたこともあり映画を見に行ったり、お墓参りに行ったりしている。 (外部評価) 以前からの「行きつけの洋服店」がある方には、職員がお連れすると、お店の方は、ご本人の好みをよくわかってくださっており、「こんなの好きやったね」と、気に入るような洋服を数点出してくれて、選びやすいようにしてくださっている。又、以前入院していた病院内にある理容院の利用を希望される方もあり、理容院に出かけた際には、お世話になった顔なじみの看護師の方と会話したり、「よく利用した売店」で、おにぎりを買って食べることを支援され、ご本人の安心と満足につながっているようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間で不平等の訴えも多く、孤立させないように口論した時には仲裁に入る。他者への批判が強い利用者もいる為、円滑な関係を築くのは難しい事が多い。行事等で一緒に楽しめるような場を作れるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続して行事、会報の送付を続けている。契約が終了しても気軽に来所出来るように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思表示出来る方については意向に添えるように努めているが、人員不足、余りにも希望が多い利用者については無理な事も多い。 (外部評価) 利用者個々の担当職員は、年度が変わるごと、アセスメントに取り組んでおられ、利用者の写真に身体の状態を書き込まれたり、「今の楽しみ」「今の不安や苦痛」「生活上の希望」等について普段のかかわりをもとに情報を書き込み、思いや意向の把握に努めておられる。又、看取りについての意向調査を行っておられる。意思表示が難しい利用者やご家族と疎遠となっている利用者等、情報が得にくいような方もあり、今後さらに、職員は利用者へのかかわり方も工夫して情報収集に努めていかれてほしい。	管理者は、今回、自己評価に取り組み、「一日の利用者の生活が職員のペースになっているのではないか」ということに気付かれた。事業所が気付かれたことは、ケアサービスの質の向上への最大の起点でもある。この機会を活かして、「利用者の暮らし方の希望」について、ご本人、ご家族、職員で話し合う機会を持ち、利用者一人ひとりが主役の暮らしへの支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス利用の経過等の把握に努めているが、家族とのつながりがない場合などあり十分な対応が出来ていない。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の意向による過ごし方を否定しないようにしてはいるが、必要と思われる事についてはアプローチする場合はある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月モニタリングを行い、家族の意向も確認し、医療とも連携している。スタッフ会で意見を出し合い今後の生かせるように努めている。状態の変化があれば介護計画は変更している。	
			(外部評価) 利用者個々の担当職員が、ご家族にもケアへの要望等をお聞きして、それぞれが責任を持って介護計画を作成され、3ヵ月ごとに見直しを行っておられる。今後さらに、ご本人の思いや意向に沿い、利用者の暮らしが広がったり、利用者が持っている力を活かしながら暮らしていけるよう、介護計画の作成にも工夫を重ねていかれてほしい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 身体・心情が変わったことがあれば記入するようしており、仕事開始前には、個別記録に目を通し状態の把握に努めている。だが、職員間での着眼点や的確な表現等力量においての差がある為充分ではないといえる。	
			(外部評価)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 昔慣れ親しんだ物を家族又は本人と相談して支援するように取り組む努力をしているが、多機能化とまではいえないと思う。	
			(外部評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源の把握が十分に出来ていないので、可能な限り(映画館・喫茶店・食事・温泉等)実現できるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 連携医療機関に週1回往診、24時間対応可能な関係を築けている。本人・家族の希望があれば入居前	
			(外部評価) 協力医療機関の往診を受けておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 当日、職務についている職員で小さな事でも気が付いたら相談しDrに連絡する事が必要かを検討、指示をもらうようにしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 医療連携と連絡(情報)を密に取り、主治医に伝え、退院後も生活がスムーズに出来るように努める。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 年度始めに毎年、本人・家族に希望や意向を聞き、状況の変化に応じ、その都度相談して意向を確認している。	
			(外部評価) 終末期のあり方についての意向調査を年度が変わるごとに行っておられ、支援時の指針とされている。意向調査の際には、事業所から、「希望があれば事業所での看取り支援も可能であること」「支援にはご家族の協力が必要であること」等をお話しておられる。又、入・退院等、利用者の状態変化時には、医師の意見も踏まえて、「今後のこと」について話し合っておられる。法人内研修では、系列事業所が集まり、それぞれの事例をもとに、利用者の病気や重度化した時のケア、看取り支援について勉強されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署による救命救急の対応の訓練や自主訓練、緊急時の対応マニュアルの作成し発生に備えているが、エレベーターの使用は不可能と思われるので利用者の避難は実際は困難である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議で議題にもあげ、協力の呼びかけは行っている。昼夜の対応と内容を変えた災害時の対応の訓練を定期的に行っているが、準備対応が十分でない。 (外部評価) 年に2回の避難訓練は、建物内の併設小規模多機能型居宅介護事業所とともに実施されている。1回は消防署の協力を得て訓練を行い、もう一回は自主訓練をされている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 他の利用者に聞かれてはいけない内容の話をする場合には、居室にて話すよう配慮している。 (外部評価) 「自分のことは自分でしたい」という気持ちを持っておられ、利用者で目が不自由な方について職員は、居室の物の位置を替えないよう気を付けておられる。又、食事の際には、利用者の隣りに座って食事内容を案内され、手や口をあまり出さず、ご本人から声がかかればサポートされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 選択肢を提示をして選択して頂く。言葉では拒否しても、その裏側にある本人の思いを読み取る。表情や反応だけでなく、傾聴して引き出していけるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の人員が不足ぎみな時には、本人の希望に添えていないこともある。なるべく、本人のペースに合わせた支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が着たい服を選択して頂いている。鏡の前で身だしなみを整えてもらったり、化粧をさせて頂く方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に食物も切ったり、盛り付け等の準備をさせて頂いている。片付けについては意欲に繋がれていない。 (外部評価) 事業所でメニューを決めて、利用者と一緒にスーパーに食材の買い出しに出かけて食事作りをされている。利用者は、職員と一緒に包丁で食材を切ったり、盛り付け等をされている。食事がすすまない時には、外食に誘ったり、高カロリー経腸栄養剤で補うこともある。時々、「ばあばの料理教室」の目を設けて、利用者にとって懐かしい料理を利用者に教えてもらいながら、一緒に作る取り組みを行っておられる。「サトイモの煮つけ」「蒸しパン」「手打ちうどん」等、利用者は、コツを教えてください、ご自分からすすんで調理するような場面がみられるようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた好み物や形状を提供している。水分量については、一日800cc以上摂れるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に全利用者の口腔ケアの実行は出来ていないが、寝る前には必ず行えるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 夏場には、なるべく布パンツを使用している。排泄間隔をみて、トイレで排泄が出来るように努めている。仙骨部、腹圧マッサージ等で排泄を促している。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄の記録を付けて、それに沿って声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳・柑橘系・乳製品を補給している。日中、運動や水分摂取を心掛けている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 概ね3日おきの入浴に努めているが、本人の体調にあわせて対応している。職員の都合でやむ負えず入って頂くこともあるが、きちんと説明して了解は得ている。	
			(外部評価) 現在、入浴に気がすすまないような利用者が多く、職員は、入浴の記録を見ながら、前回入浴された日を目安にして、入浴予定者を決めて声をかけておられ、週に2回くらいの入浴となっているようだ。利用者の中には入居前から温泉がお好きでよく出かけておられた方もあり、現在も、担当職員と地域にある温泉に毎月出かけ、楽しめるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 訴えがなくても、休憩が必要と判断出来る方については声掛けを行い休んで頂いている。夜間、精神的な安定が図れない時には、とんぶくの薬を服薬して頂くこともある。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬後、薬の包装や記録を残す事で確実な服薬を日頃より徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 映画・温泉・野球観戦など、入居前からの楽しみを継続出来るように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望には対応しきれないが、本人や家族の意向があれば予定を調整して支援出来る体制を作っている。	
			(外部評価) 利用者個別に外出支援を計画し、継続して取り組まれている。映画や温泉、プロ野球観戦、買い物等に出かけたり、調査訪問時の午後、車いすを使用している利用者は、職員と一緒に玄関前に出て外を眺めて過ごしておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員が管理しているが、買い物に同行した際には、自分で払ってもらっている。使う前後に残金を伝えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や、手紙は原則自由であるが、相手方の拒否の意向が確認出来た際には支援していない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日の掃除にて対応しているが、ポータブルトイレが居室にある場合、どうしても臭気が防げず芳香剤を使用し、換気に努めている。	
			(外部評価) 職員がご自宅から持って来られた「のうぜんかずら」「あじさい」をテーブルに飾っておられた。廊下や居間は天窓があり、自然の採光が明るい。調査訪問時は数日降っていた雨が上がって、事業所では窓を開けて風を通しておられ、台所で食事作りの音がしたり、お寿司ができるにおいがしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ等を利用される事もあるが自分の席を設けている。全体を見渡せる位置で一人になれる場所作りは出来ていない。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具の持ち込みは自由なのであるが現在の入居者では持ち込みはない。	
			(外部評価) 携帯ラジオを聞きながら過ごされる方があり、ニュースや番組で時刻が分かるようだ。ご本尊を持って来られている利用者には、しきびを供えられるように、職員が買い物時に購入して用意されている。利用者の子どもの頃から現在までの写真をレイアウトして貼っておられる居室もみられた。居室には、清拭時に使用できるようポットと洗面器を置いておられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バルーフリーの床になっており床に物を置き自走への障害にならないように注意している。	
			(外部評価)	